

保育ビジョン策定検討委員会会長と区長との面談

【日 時】平成19年10月24日（水）17時10分から

【場 所】区長室応接室

【出席者】汐見稔幸氏（文京区保育ビジョン策定検討委員会会長）・成澤廣修（区長）

〈陪席〉大角保廣（男女協働子育て支援部長）・

久住智治（男女協働子育て支援部保育課長）

【発言内容要旨】

（汐見氏から）

- 私はこの3月まで東大の教授をやっており、その関係で保育ビジョン策定検討委員会のお手伝いをさせていただいた。前区長から保育ビジョン策定に関して検討の依頼を受け、議論した内容を報告したが、区長が代わってもこの内容が具体化されるのか、策定検討委員会の委員の方々から心配の声が聞かれたことから、検討の経緯や委員の思いについて新区長に対して、代表である私から伝えてほしいとの依頼があり、それは当然だと考えお約束をしていたものである。
- 『保育ビジョン策定検討委員会報告書』は、短期間で相当詰めた議論をして作成した。膨大な量のアンケートも取らせていただき、それを文章化する作業を基本的にはかなりの部分を委員の方にやっていただいている。こんなに厚い報告書だがメンバーに作る力があつた。ここには親の具体的な悩みやニーズが細かく出ており、これからの政策づくりに活かせる内容がかなり含まれていると思う。活用していただけるとありがたい。
- こういう文章を公募委員も含めて皆で議論しながら作ったことに大きな意味があつたと思う。子育てに関しては当事者でないと分からない悩みや不安がある。その人達が、自分たちの住む文京区というまちに「こんな制度を作ってほしい」「こんな施設を作ってほしい」と直に訴える場となつたのではないか。予算等の関係から、書いたこと全ては実現できないだろうが、なるべく政策に乗せられるよう見通しながら形にした。この会はとにかく皆で言いあうことから始めた。例えばこれはかなり議論になつたのだが、これからの文京区の子育てにとって、特に保育園の果たす役割は大きいだろうと打ち出したところ、専業主婦の家庭が何故保育園を活用できないのかと不満が出た。しかし、保育園を利用している人には色んな人たちに来られては不安という方もいる。だが税金を払っている区民全員の視点からは、利用していない方にも権利はあつて然るべきとも言える。そこで長期的展望としては、保育園は誰でも利用できる施設としていくべきだということで一致した。その上でさしあたって専業主婦の方々が保育園を活用するとしたらこういう形があるのではないかと意見が出された。委員には保育園園長もいたが、それに対して「趣旨は分かるが今の体制でそこまで手を広げたら大変」ということも率直に言われている。それに対しては専業主婦の方々は現実に

困っていることを訴えられるなど、お互いかなり本音の議論が出来たと思う。また、公園については子育て中の親にとって安全の問題など相当不安が強いことも浮かび出てきており、住民の声を聴きながら整備していくことも大事ではないか。

○保育園を利用している親の代表にも参加していただいていたが、その中からは各地で行われている保育園民営化の問題について不安や懸念が強く表明されていた。これについては、時代の流れもあり無下にできる問題ではないけれども、現実には各地で民営化を急いだために起こっているトラブルについては文京区では是非避けたい、区はそういう意向で進めているわけではないことをみんなで確認させていただいた。

○『保育ビジョン』2ページの「位置づけ」については、議論したことがどう反映されるかが分からないと非常に虚しくなるとの意見があり、載せていただいた。政策ベースで判断して報告書からピックアップした内容をビジョンにさせていただいているが、ビジョンの位置づけとして「文京区地域福祉計画及び文京区子育て支援計画の具体化及び計画の見直しの際の基本指針とします」と書き込んでいただいている。今後、子育て支援・保育行政関係の新しいプランを考えるときには、区民がどのように考えてきたのか確認していただき、その上でなるべくこの要望が具体化する方向で施策化していただきたいというのが私の強い願いである。見直しの際、これをたたいて作業していただければと思う。提案の中から1つでも2つでも具体化すれば、区民としては凄く誇りになるし嬉しい。

○やっぱりみんな夢を語りたんだということが良く分かった。行き詰ったとき後ろ向きになるのではなく、前を見ようよというのが大事な教訓になった気がする。住民が自治体のために色々やっていきたいという思いは、今後もっと様々な形で出てくると思うが、そこで一生懸命やったことが少しでも形になると、そのことは住民を物凄く変えていくと思う。

(区長から)

○子育て支援計画は平成21年度から、地域福祉計画は20年度から全体の見直しの作業に入るが、子育て支援計画の改定は平成21年度になる。計画改定の段階で分科会的なものを設置して、具体的な政策づくりを進めていくことになるので、保育ビジョンの具体化はその中で議論されることになる。

○父母連の皆さんからは、この保育ビジョンをどう具体的に実現するのかを検討する会議体を設けるとのご意見があったが、まさにこのビジョンの位置づけとして示しているように、地域福祉計画の見直しの中で落とし込んでいくとの説明をさせていただいたところである。

○ビジョンそのものは、地域福祉計画の見直しの中で生かしていくという大原則があるが、個々の施策でそれより先に単年度予算編成の中で取り入れられるものについては、積極的に取り入れていく。

○現在、20年度予算編成を行っている最中だが、原課からは緊急一時保育を始めとして様々なレベルアップの要求がされている。その中では、保育園に通っていない親のニーズを満たしていく施策についても積極的に盛り込んでいこうとの要望が出ている。

○今、色々な分野で本区は区民参画を進めている。区の根幹である基本構想そのものを見直そうと考えているが、その際には当然、様々な分野について区民の意見を聴いていく。

(男女協働子育て支援部長から)

○今日ようやく日程調整がつき、汐見先生から区長に報告書作成過程で表明された、策定検討委員会の委員の方々の熱い思いを語っていただいた。我々も改めて真摯に受け止めていくが、単年度の予算の中でも出来ることから既に実施している。例えば、今年4月から「地域子育てステーション」として、地域の在宅の親子と一緒に遊んだり子育て相談のような形で保育園に来ていただく、月に1回の取り組みを始めている。また、緊急一時保育も今後拡大できるような方向で検討をしている。平成21年度の子育て支援計画の改定の際には、今後厚生労働省から示される保育所保育指針とあわせて、提案されている内容についても施策化していくよう取り組んでいきたい。

(保育課長から)

○今年度の保育士研修の資料として、この報告書を活用している。報告書からピックアップをした内容について保育士同士に議論させているが、その中では、自分の園のことだけに係わるばかりでいいのか、こういった切実な意見を持った人たちにどう向き合っていくべきか、親の意見を単に「わがまま」と一括りにするのではなく、考え方や取り組み方を変えていかなくてはいけないのではないかと、といった前向きな意見が出ている。生の声には現場を変えていく大きな力があると思う。

終 了